

「自分を大切に・人を大切に・ものを大切に・自然を大切に」 を合言葉に、エコ委員会が主導して みんなで取り組むエコ・スクール活動

エコスクール活動に取り組んで 17 年目。学校ビオトープを活用しながら、児童会エコ委員会のメンバーを中心として児童がアイデアを出し合っている活動に、家庭・地域・地元企業と連携した学習活動を重ね、共に学べる環境学習を展開した。

1 学校の概要

油日小学校は、滋賀県南東部の鈴鹿山脈の麓にあり、油日岳を源流とする杣川が学校近くを流れている。2000年の3月に完成した学校ビオトープも、今では木々が大きく育ち、カエル、メダカ、ドジョウ、ドンコ、タニシ、カワニナなど多くの生物が観察できる場になった。また、校庭にも数十種の木々が育ち、よい活動場所となっている。

2 活動の実際

(1) エコ委員会の取り組み

ア. ゴミゼロ作戦

子どもたちのゴミをなくしたいという思いを具現化する活動「ごみゼロ作戦」は、5月30日の「ごみゼロの日」に向けてエコ委員会から呼びかけて取り組んだ。事前の説明は、エコ委員会のメンバーが集団下校時の集会で行った。当日は教室のゴミ箱に封をし、各自が広告で作った紙袋にその日の自分のゴミを入れた。一日の終わりの学級活動で、ゴミを分類し、減らせるゴミはないかなど話し合った。子どもたちが無駄なゴミについて再認識する機会になった。

イ. 啓発劇「ガガブタを大切にしよう」

「ごみゼロの日」の説明に加えて、環境運動の啓発を盛り込んだ創作劇をしているが、今年はガガブタなどの水草を育成して増やすことで水草を産卵場所とする生き物がビオトープに帰ってくることを「エコンジャー」を登場させて楽しく知らせた。

ウ. 「エコ新聞」と「ミニ水族館」

「エコ新聞」は、エコ委員会によるビオトープ便りである。児童昇降口のコーナーに掲示し、内容は、子ども自身が興味のある生き物紹介や開花情報、さらに果実の食べ頃情報など、写真やクイズを交えて紹介した。

「ミニ水族館」では、ビオトープや地域の川に生息する魚を紹介している。1階廊下に水槽を並べて生き物を飼育展示している。

エ. ザリガニの駆除作業

月/日(期)	駆除数	月/日(期)	駆除数	月/日(期)	駆除数
5/1(木)	75個	5/2(金)	21個	5/3(土)	21個
5/4(日)	21個	5/5(月)	21個	5/6(火)	21個
5/7(水)	21個	5/8(木)	21個	5/9(金)	21個
5/10(土)	21個	5/11(日)	21個	5/12(月)	21個
5/13(火)	21個	5/14(水)	21個	5/15(木)	21個
5/16(金)	21個	5/17(土)	21個	5/18(日)	21個
5/19(月)	21個	5/20(火)	21個	5/21(水)	21個
5/22(木)	21個	5/23(金)	21個	5/24(土)	21個
5/25(日)	21個	5/26(月)	21個	5/27(火)	21個
5/28(水)	21個	5/29(木)	21個	5/30(金)	21個

エコ委員会では、ビオトープの池に地域固有の水草であるガガブタやアサザを取り戻そうと水草の生育しやすい環境づくりを探ってきた。大量に発生しているザリガニが水草を食べてしまうことがわかり本格駆除に乗り出して5年、成果は大きい完全駆除は難しい。ガガブタも思うように育成は進まなかったが、アサザは少しずつ葉を広げつつある。毎朝「もんどり」をしかけてのザリガニ駆除は、そのわなの中にはザリガニ以外のさまざまな生き物も捕獲されることもあり、子どもたちにとって毎日楽しみながら取り組める活動である。また、今年からザリガニ駆除の見える化(駆除数の記録の掲示)を行い、春から秋にかけてザリガニが3分の1まで減少したことが明らかになった。夏には、平家ボタルがビオトープに現れ、ビオトープの環境が良くなったことを実感した。

オ. 秋の自然と遊ぼう会

10月下旬の昼休みに、エコ委員会が中心となりワークショップ形式で行う活動である。「葉っぱマンをさがせ！」では、木や草むらに隠れる「葉っぱマン」役の児童を見つけて、ネイチャークイ

ズに答えて楽しんだ。また「どんぐり広場」「ザリガニつかみ」など子どもたちのアイデアでゲームを展開した。



(2) 環境フェスティバル 10月8日(土)

この行事は、学校で取り組んでいる環境教育を、家庭や地域に広く紹介するために、親子で学ぶ場として全校をあげて行っている活動である。

内容は学年ごとに、次の活動を行った。

- ・ 1年 アサガオのつるのリースづくり
- ・ 2年 ひつつきむしの絵、虫クイズ
- ・ 3年 池の生き物観察と飯盒炊さん(防災)
- ・ 4年 丸太切り体験 木切れでクラフト
- ・ 5年 水中の微生物観察、ヨシ笛づくり
- ・ 6年 油日神社の宝物殿見学と写生

地元森林組合やみなくち子どもの森の学芸員など地域の方々からの幅広い協力を得て、専門的な指導も受けることができた。子どもと一緒に自然と触れ合ったり、環境保全のために自分たちができることを話し合ったりする機会を得られて良かったという保護者の感想が多く寄せられた。



(3) エコ・スクール支援委員会の取り組み

環境フェスティバルを支えるもう一つの重要な組織が「エコ・スクール支援委員会」である。この組織はPTAの中の専門機関として位置づけら

れている。保護者でもある委員には、計画から運営まで自分の興味関心を活かしながら関わっていただいた。中でも「ひつつきむしの絵」と「飯盒炊さん」のショップでは、支援委員自身がフリップを作成し、活用してプレゼンを行った。実施後の総括会議では、保護者からのアンケート結果や支援委員の反省をもとに、学習活動の見直しや当日の動きなどについて具体的に意見が出され、次年度の活動につながる話し合いの場となった。

(4) ハナノキ学習やグリーンカーテン

生活科や総合的な学習の時間「ハナノキ学習」でも3年の薬草博士など、ビオトープを中心として学習を展開している。また、夏場の節電対策に今年も校舎南側にグリーンカーテンを栽培した。

(5) 地域や地元企業との連携「油日小学校薬草園」

「くすりのまち甲賀町」のビオトープとして、地元企業シオノギの油日薬草園の指導と協力を得ながら、地域種の薬草を栽培した。今年も、油日神社由来のゴマ4種も植えた。

まずは、3年生が薬草学習の一環としてアイ染めに挑戦。朝摘みした生葉を使い、薬科大学の先生の指導のもと、色の変化に感動しながらたたき染めと絞りを加えた青汁染めに取り組んだ。

また6年生は、家庭科の「お世話になった人へのプレゼント」の布材料として紫根染めをした。今年も、裁縫に適した生地(厚めの木綿)に染め付けの際に出る悪臭を除去する方法を、環境部が企業専門家に相談し、改善することができた。

また、昨年、地元滝地区の「ササユリの会」より、バイオで育てた球根を分けてもらいビオトープに植えたが、さっそく春に花をつけた。今年も滝地区の子どもたちが、新たに場所を増やして植え付けをした。

(6) ハナノキ案内パネルの設置

地域の方から今年の初老記念として「ハナノキ」の案内パネルを寄贈いただいた。滋賀県では東近江市花沢の「ハナノキ」が国の天然記念物に指定されていて有名だが、本校の「ハナノキ」もそれに匹敵するほど貴重な大木である。学校のシンボルともいえる「ハナノキ」をもっとアピールするために、木の横に「案内パネル」を作っていただくことができた。

学校名	甲賀市立油日小学校
住所	甲賀市甲賀町上野1322
電話番号	0748-88-2079
E-mail	koka30102032@city.koka.lg.jp